

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ブロッサムジュニア上越春日新田教室（児童発達支援）		公表日 令和8年 4月 10日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		・平日の児童発達支援は2～3人なので、部屋が広く使えてちょうど良い。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	60%	40%	・個別療育はメインの職員とサブの職員がいることで療育しやすい。	・人手不足を感じることもある。 ・職員研修を実施し、職員一人一人のスキルを向上させ、少ない職員数でも支援できるようにしていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%			・外階段は、雪がついていて滑りやすいことはある。 ・滑り止めテープを貼ったり、職員が常に側で見守り、安全に配慮していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		・常に清潔にしている。	・子どもたちは靴下で過ごしているため、冬は床が冷たいかもしれない。 ・エアコンで室温調整をしたり、必要に応じて内履きを持参できるようにする。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		・その日の集団療育のねらいを決め、振り返りをしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			・職員の意見を聞く機会は設けているが、職員によっては話せていないので、話しやすい雰囲気づくりを心掛ける。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	40%	60%		・外部評価は行われていないと思う。 ・よりより支援を進めていくために外部評価ができるよう、検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・さまざまな研修を受けている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表にされているか。	100%			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（個別支援計画）を作成しているか。	80%	20%		・適切にアセスメントできていない時もあるため、アセスメントシートを用いて適切にアセスメントできるようにしていく。
	13	児童発達支援計画（個別支援計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		・どのような支援が必要か考える機会があり、職員間で共有できている。	
	14	児童発達支援計画（個別支援計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	80%	20%		・個別支援計画の内容と個別療育の内容が合っていない時があるので、個別療育の前に個別支援計画を必ず確認する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%			
	16	児童発達支援計画（個別支援計画）には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		・さまざまな活動ができるようにしている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（個別支援計画）を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21	支援終了後には、職員間で行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	80%	20%		・児童発達支援の後は反省会が行われていないので、反省会の時間を設ける。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（個別支援計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%			
	28	管理者・児童発達支援管理責任者が地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設け、職員間で情報を共有しているか。	100%			
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	40%	60%	・平日は外での活動等は少ないが、土曜日と祝日に利用する子は、イベントに参加することで地域の子どもたちと関わる機会がある。 ・公園での活動の際に、公園で遊んでいる地域の子を誘って交流することがある。	・平日利用の子は滞在時間が短く、難しい。 ・保育所やこども園、幼稚園との交流は、時間がかかると思われる。平日のご利用者様も地域のイベントに参加できるように利用日の調整をしていく。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	60%	40%		・必要な保護者様には情報共有ができるように研修を計画していく。 ・ペアレントトレーニングを行うことだけが家族支援というわけではなく、幅広く家族支援として対応するために、親子活動や定期的な面談に取り組んでいく。	
保護者への説明等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	33	児童発達支援計画（個別支援計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	80%	20%		・十分な時間で面談ができていない時があるため、事前に保護者様とやりとりし、面談の時間が十分に取れるようにしていく。
	34	「児童発達支援計画（個別支援計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画（個別支援計画）の同意を得ているか。	100%			
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%			
	37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%			・連絡帳アプリをもっと活用し、おたよりや活動内容を周知していく。	

	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	40	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	41	事業所の行事に地域住民を招待する、地域のイベントに参加する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%			
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	80%	20%		・職員はマニュアルを定期的を確認しているが、家族には周知しきれていない。 ・玄関や面談室での掲示や連絡帳アプリで周知していきます。
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	80%	20%		
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			
	45	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	80%	20%		・職員はマニュアルを定期的を確認しているが、家族には周知しきれていない。 ・玄関や面談室での掲示や連絡帳アプリで周知していく。
	47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	80%	20%		
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画（個別支援計画）に記載しているか。	100%			